



洋上アルプス

No.280 平成30年7月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333

現地調査を受け入れ (6月12～13日)

岩手県にあるノースジャパン素材流通協同組合から、屋久島現地調査の要請に応じて理事長以下10人を受け入れて、縄文杉や安房貯木土場などを案内し屋久島森林管理署及び当センターの取組等の説明を行いました。

12日は、川畑屋久島森林管理署長と一口森林技術指導官が、現在建設中の屋久島町木造新庁舎を案内し町担当者から屋久島地杉の特性や建築工法等の説明を受けるとともに、安房貯木土場においてヤクスギ土埋木の生産・販売状況等について説明しました。



新庁舎建設現場での説明

13日は、古市保全センター所長、奥村生態系管理指導官、一口指導官が縄文杉を案内し、世界自然遺産地域における保全管理の取組や縄文杉の樹勢回復措置等について説明しました。



縄文杉保護の経緯について説明

今回の現地調査を通じて組合の方々からは、屋久島の素晴らしい森林生態系や縄文杉に感動したとの感想とともに、急峻な山岳部の多い屋久島で森林管理業務を行っている職員へ労いの言葉等を頂きました。

今後においても外部からの現地調査等を積極的に受け入れて、国有林野事業に対する理解を深めてもらう取組を行っていく考えです。

学校登山の前にマナー指導を実施 (6月14日)

屋久島高校において、7月に予定されている黒味岳への学校登山を前に、1年生78名を対象として当センター職員による登山の事前指導を行いました。

屋久島高校の学校登山は毎年実施されている1年生の行事で、郷土に伝わる「岳参り」の風習の体験等を目的としています。

今回の事前指導では、登山中のマナーと注意事項や携帯トイレの使用方法について、写真や実物を交えながら説明を行いました。説明後、生徒代表や4月に赴任した先生に実際に携帯トイレを体験してもらい、使用手順や必要性を伝えることができました。



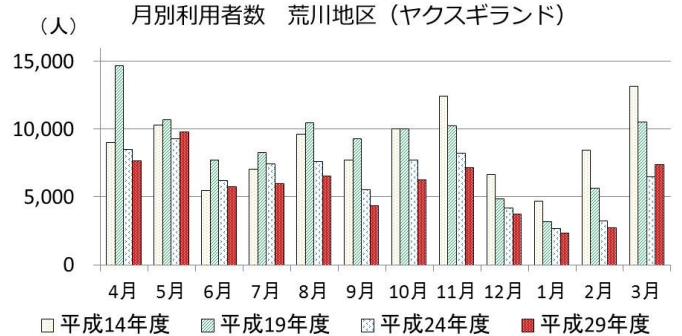
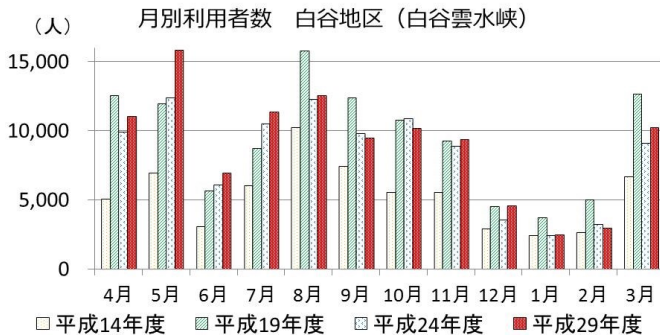
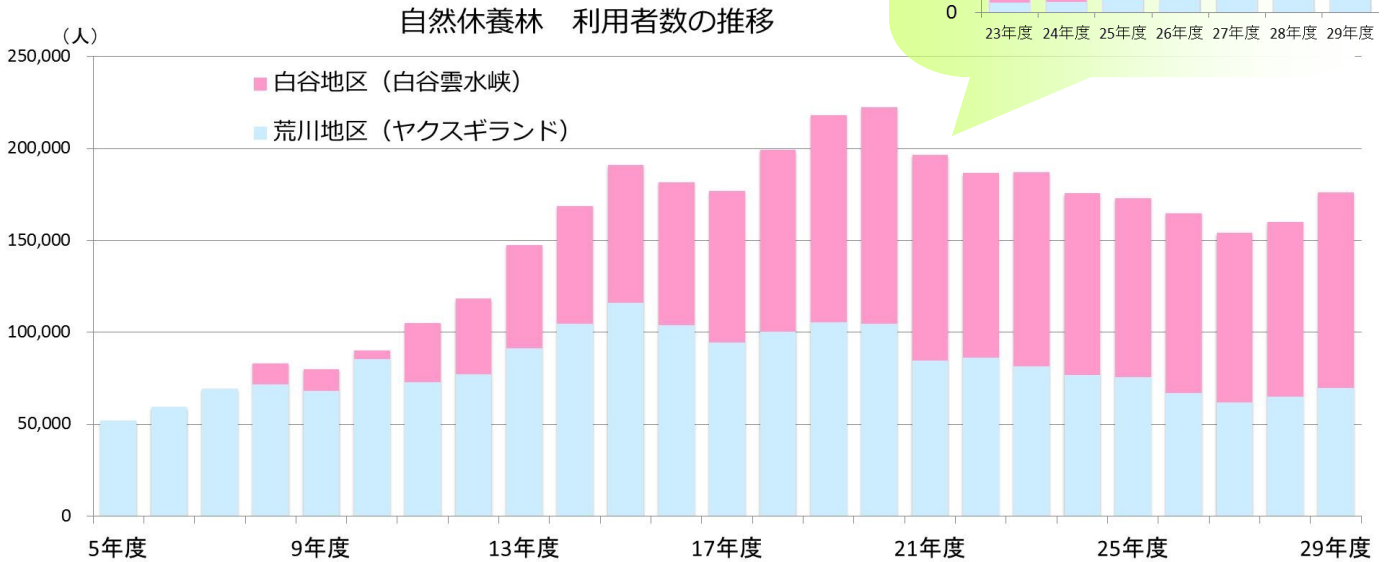
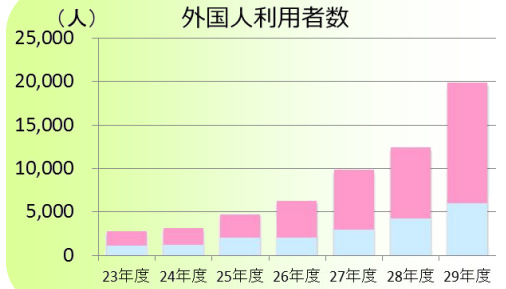
説明を聞く生徒

参加者はメモを取りながら職員の説明に耳を傾けており、登山マナーの向上と自然環境保全への意識を高めることができました。

屋久島自然休養林の利用者数

屋久島自然休養林の利用者数の推移を、年度別・月別のグラフで表しました。平成29年度については、176,318人が利用し、その内、外国人利用者は19,973人と1割強を占めています。

※データ提供：屋久島レクリエーションの森保護管理協議会



屋久島エコツーリズム推進全体構想に係わり協議

(6月5日)

屋久島町エコツーリズム推進協議会は、屋久島町役場本庁において平成30年度総会を開催しました。

総会では、協議会会長の荒木屋久島町長より「2月に行われた『全国エコツーリズム大会 in 屋久島』については、関係者の尽力により大盛況の内に終了し感謝します。この大会で宣言した「屋久島町エコツーリズム推進全体構想」については、本年度より本格的に策定へ向け取り組んでいく所存であり、本日がその第一歩となる場であり、活発な議論をお願いしたい」と挨拶がありました。



会議の様子

協議事項では、平成29年度事業報告および決算報告、平成30年度事業計画及び予算案、当協議会への新規参加申し出、特別委員の選任、エコツーリズム推進全体構想の策定について協議が行われました。協議の中では、予算等の質問の他、平成27年に屋久島エコツーリズム推進全体構想に係わり専門部会である策定部会立ち上げで実質止まっている状況から、策定へ向けた部会のメンバー構成等進め方が協議されました。最後に、全体で協議事項を確認し終了しました。

気持ちよい登山を！山岳ガイドが清掃ボランティア (6月28日)

6月28日、屋久島内で活動する屋久島観光協会ガイド部会、屋久島山岳ガイド連盟、屋久島ガイド連絡協議会の3団体に所属する山岳ガイド19人が、日頃から登山客を案内する際に利用している小杉谷休憩舎の清掃と屋根補修のボランティア活動を実施しました。

当日は、屋久島森林管理署、当センターからも5名が参加して、山岳ガイドの皆さんと休憩舎の壁やベンチ、テーブルに貼り付いた苔等をブラシで清掃、また、最大の課題であった屋根の雨漏り箇所は屋久島地杉の平木を用いて補修しました。



屋久島地杉で屋根補修

山岳ガイドの皆さんの懸命な作業の結果、休憩舎は見違えるように綺麗になるとともに、雨漏り箇所も修復され雨の多い屋久島において引き続き観光客に心地よく利用して頂けるようになりました。

今回の取組は、国有林職員とガイド団体で意見交換を行い、国有林内のボランティア活動を実施して頂いたものであり、これを機に登山道の補修等のボランティア活動を継続したいとのことでした。また、当日の作業状況についてはマスコミ2社の取材を受け、山岳ガイドと国有林の取組について地元をはじめ広く県民にPRすることが出来ました。



参加された皆さん、お疲れさまでした！

登山する時には注意しましょう



- ①登山道から外れると遭難の恐れがあるので、決められた登山道を利用しましょう。
- ②迷ったら、むやみに動かず元の位置まで引き返しましょう。
- ③天候は急変するので十分な準備と装備で登山しましょう。
- ④大雨などにより増水すると沢が渡れなくなるので、十分に注意しましょう。

- ⑤立入禁止区域へは絶対に入らないようにしましょう。
- ⑥体力と経験に応じ時間に余裕を持った無理のない計画を立てましょう。
- ⑦事前に気象情報等を十分に把握しましょう。
- ⑧下山時に事故や怪我は発生することが多いので、下りは足元に注意し慎重に行動しましょう。





屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成28年度）

●標高600mプロット（愛子岳東側斜面）

林齢164年生の天然林で、50～60年前までは薪炭利用されていた二次林で、胸高直径が50cmを超える大径木は稀でタブノキが1本見られるのみ。急な登坂登山道沿いに該当し、プロット内には部分的に45度を超えるような急斜面がある。



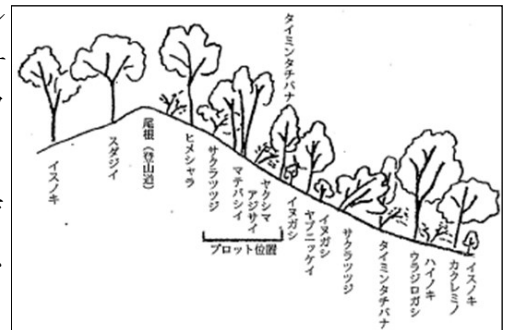
標高600mプロットの林相

階層区分	2001年	2006年	2011年	2016年
高木層(6.0m以上)	スダジイ	スダジイ	スダジイ	スダジイ
亜高木層(3.0～6.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2～3.0m)	ハイノキ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ
草本層(1.2m未満)	ヤクシマアジサイ	ヤクシマアジサイ	イヌガシ	イヌガシ

[優占種の変化]

[概要]

- スダジイ—サクラツツジ群集。高木～亜高木層にサクラツツジ、タイミンタチバナが非常に多い。低木層・草本層にはヤクシマアジサイ、アリドオンが多い。シダ類が多いことや、ヤクシマツチトリモチ、チャボシライトソウが出現することもこの林分の特徴である。
- 林床には、粘板岩礫～転石が10%程度を占め、高木性の稚樹は生育するものの草本種は少ない。標高560mの地点にはツガの高木が3本、標高約595m付近にはスギの高木も出現している。
- コバンモチの萌芽枝が食害を受けている。地上高30cm以上は既に枯損



群落縦断面図

最後の公売を盛大に開催（6月5日）

屋久島森林管理署安房貯木土場において屋久杉土埋木の公売を開催し、屋久杉土埋木約49m³のほかヒノキ約1m³とツガ約4m³の合計約54m³が出品されました。今回の公売に向けては、検知、極えのレイアウト、価格評定、会場設営など全てを職員実行で行うとともに、職員全員で公売当日の役割分担を決めて詳細な打合せを行いました。



公売の状況

当日は、あいにくの雨天になりましたが屋

久島内外から21社の買方が参加する中、川畑屋久島森林管理署長の開会挨拶のあと公売が開始され、職員の競り子の威勢の良い掛け声とともに、次から次へと競り落とされていきました。

その結果、屋久杉土埋木の最高値は立方m当たり約100万円の値段がつくとともに、平均入札単価は立方m当たり約32万円で取引されました。また、公売の状況は、テレビ・新聞のマスコミ取材を受けました。

屋久杉土埋木は貴重で限りある資源であるため、今回の公売が最後となりますが、屋久島森林管理署としては少しでも細く長く生産・販売が出来るように取り組むとともに、引き続き屋久杉の人工林の需要拡大にも関係機関と連携しながら取り組んでいく考えです。